

門へ13
号3740



若与板

水無美談

時成のふみ

二十九年

よみまを

いぬのこゝろ

くぬぎのこゝろ

水無月の空暑き日ハ只さく體小持らうくハ午睡ハ宰予も
叱言ハ聞くらめり然るは作者ガ机の書房の催促屢多
の佳新工夫の浮むもあは出る欠び溜息の額小
汗をかき心成尽し一帙綴り上つ責と防げど
重荷小附の端昼あり這も毎編の夏より然ら
序文といふり筆小言せんこの葉もあは有つ
俣の夏成並ぐりて巻端の餘帛と塞ぐ

丙寅六月稿成
丁卯睦月新刻

爲永春水記

寺也廿九



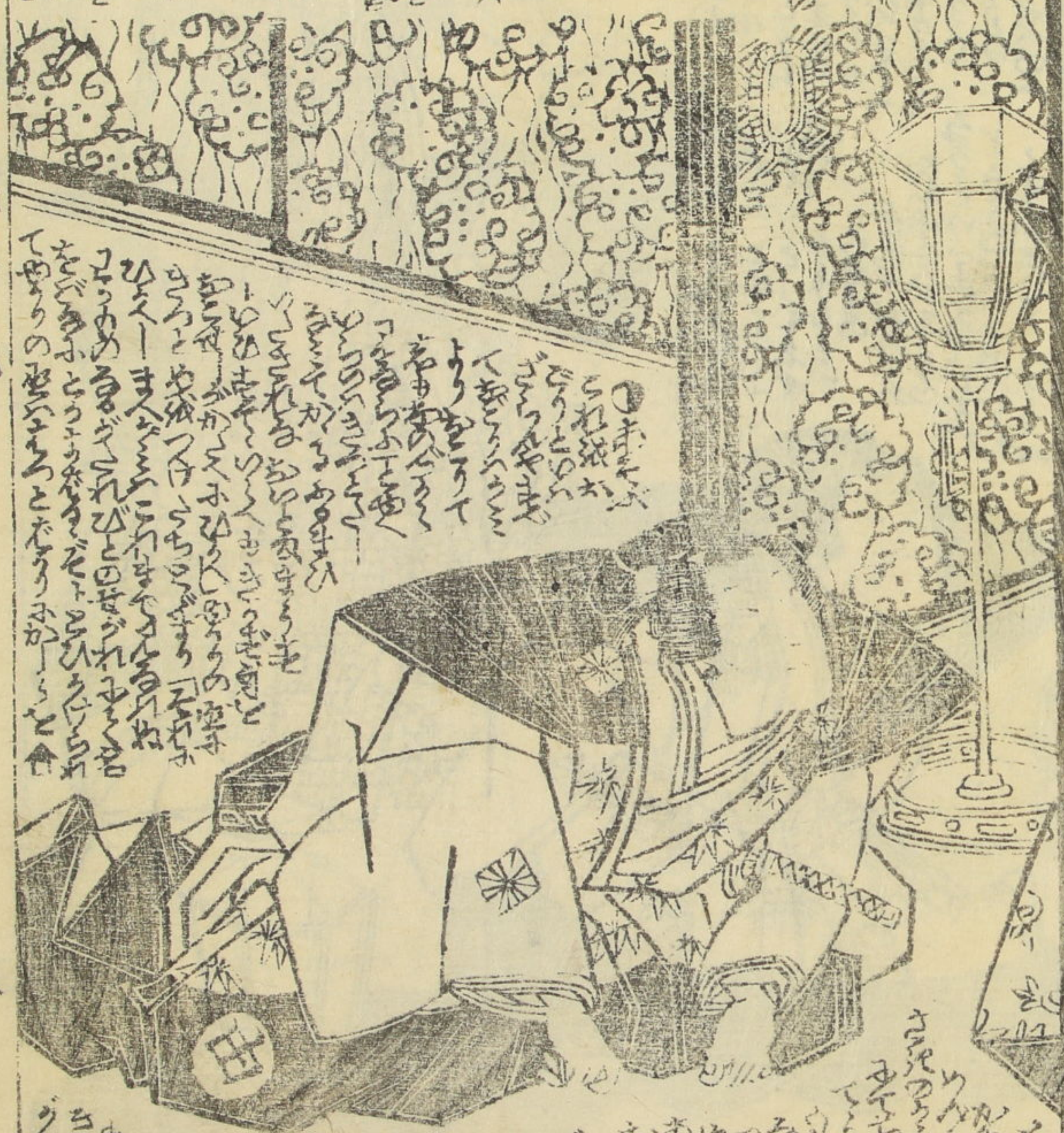
侍女
菊野



下奴
出子助

藤浪春辰

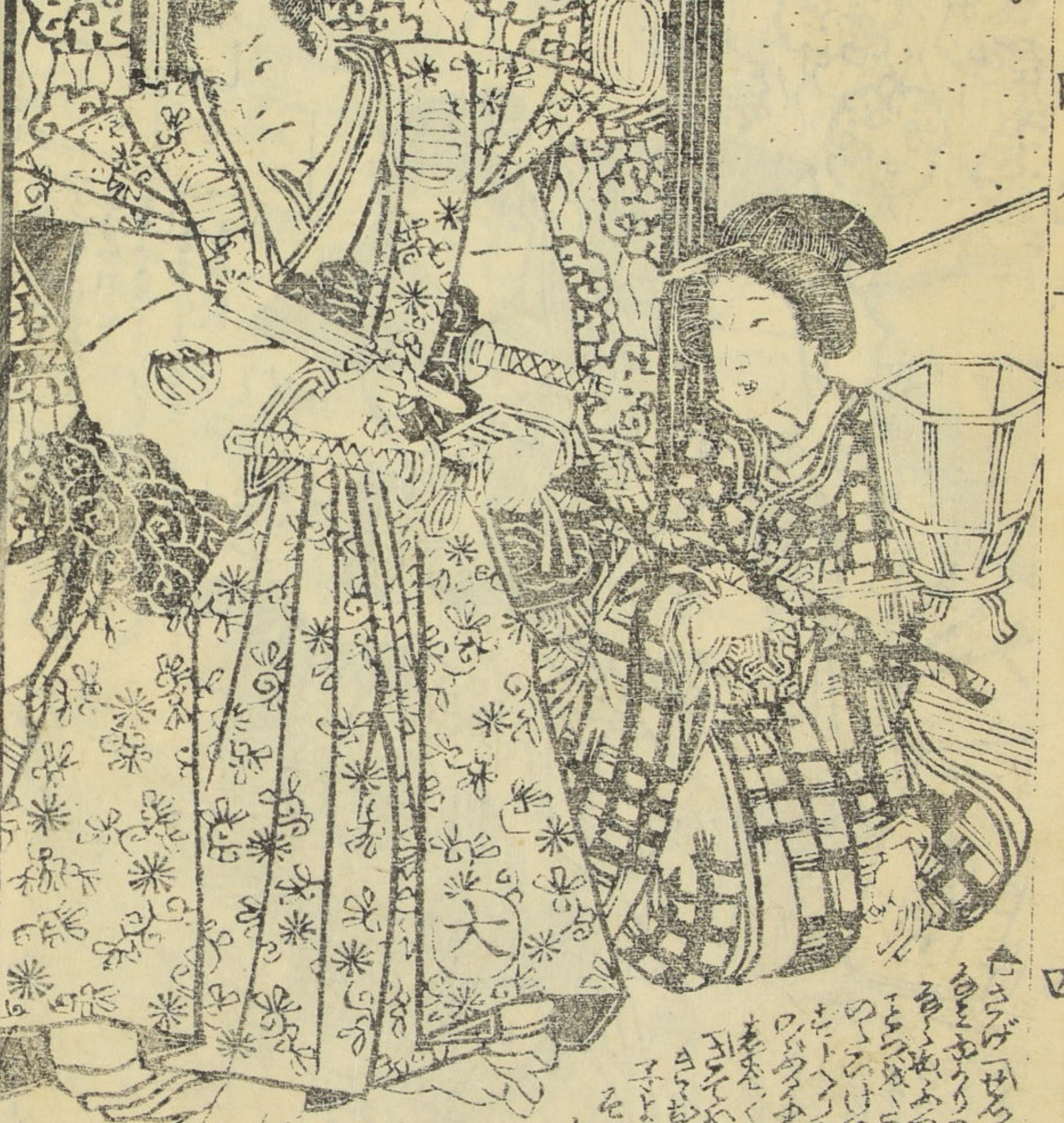
ゆき雪の
ふりや
あけの
けしき
さかす
か
あけの
けしき
さかす
か



あけの
けしき
さかす
か
あけの
けしき
さかす
か

甲午十一月

あけの
けしき
さかす
か
あけの
けしき
さかす
か



あけの
けしき
さかす
か
あけの
けしき
さかす
か

甲午十一月

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、



廿二 廿七

六

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、



廿九 卅一

五

あつたつとひつぎを
 らちやをとひつぎを
 まるやをとひつぎを
 みるやをとひつぎを
 あつたつとひつぎを
 らちやをとひつぎを
 まるやをとひつぎを
 みるやをとひつぎを
 あつたつとひつぎを
 らちやをとひつぎを
 まるやをとひつぎを
 みるやをとひつぎを



あつたつとひつぎを
 らちやをとひつぎを
 まるやをとひつぎを
 みるやをとひつぎを

あつたつとひつぎを
 らちやをとひつぎを
 まるやをとひつぎを
 みるやをとひつぎを
 あつたつとひつぎを
 らちやをとひつぎを
 まるやをとひつぎを
 みるやをとひつぎを



あつたつとひつぎを
 らちやをとひつぎを
 まるやをとひつぎを
 みるやをとひつぎを



左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の
 左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の
 左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の

左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の
 左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の
 左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の



左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の
 左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の
 左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の

左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の
 左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の
 左の
 右の
 上の
 下の
 前の
 後の

